

松山城

Matsuyama castle

Matsuyama castle was begun to build by Yoshiaki Kato in 1602. It is one of major castles which stand on a hill in the plains of Japan.



城郭建築の最高傑作

松山城

- STAGE 8. 連立式天守
- STAGE 7. 二ノ門→天守
- STAGE 6. 一ノ門→二ノ門
- STAGE 5. 紫竹門
- STAGE 4. 本丸広場
- STAGE 3. 筒井門→太鼓門
- STAGE 2. 筒井門⇒隠門
- STAGE 1. 戸無門

START

日本屈指の城郭建築
難攻不落の松山城を攻略せよ!!

松山城は、松山平野の中央に位置する標高132メートルの勝山を中心に築かれた平山城で、山頂に「本丸」が、南西に「二之丸」や、堀と土塁に囲まれた「三之丸（堀之内）」が配されており、その縄張りには幾重にも連なる石垣や屈曲した進入路に多くの城門や櫓（やぐら）などを備えた難攻不落の城ともいわれる。さらに、本丸の中核である本壇には連立式の形式をもつ天守がそびえ、本丸と二之丸を

つなぐ全国でもめずらしい南北2本の「登石垣」や、東と北の山麓には「東郭（ひがしのくるわ）」「北郭（きたのくるわ）」が配置されるなど堅牢かつ広大な城構えとなっている。

このように様々な防衛線が張り巡らされた松山城をいかに攻めるか、注意深く足を進めるその先にさまざまな仕掛けが待ち構えるこの松山城をいざ攻略せよ！

攻略の前に、
押さえて
おくべし!!



狭間



城壁の外側をうかがい、
射撃をするための開口部
のこと。

縦長のものを“矢狭間”、正方形
のものを“鉄砲狭間”という。



石落



櫓・城門・堀などに設け
られる防護のための設備
で、下に迫る攻め手の
監視や攻撃をするための備え。
おもに鉄砲などで攻撃する。



突揚戸



櫓に設けられる窓で、板戸
を跳ね上げ式に外へ開き
棒で支える。天守など一部
には格子も備えられ、その間からは鉄
砲や弓で構え狭間としても機能する。



登石垣

山腹から侵入しようとする
攻め手を阻止する目的の
ため、山麓の二之丸と山頂
の本丸と、山の斜面を
登る2本の石垣で連結さ
せたもの。“現存12天守”
の中では、松山城と彦根城
にしか見られない構成である。



屏風折石垣

間隔を置いて屏風のよ
うに折り曲げた組み方
のこと。折れ目をつくる
ことで、石垣の強度を
高めるとともに、攻め手
を側面から攻撃するこ
とができる“横矢掛か
り”が仕組まれている。



扇勾配

石垣の下半分ほどを
曲線を描くように比較
的に緩い勾配とし、上
に向かうほど強い反り
返しをつけて急勾配に
変化させている。

なぜ防御に
すぐれて
いるのか?



連立式天守

天守や櫓を四方に配置し、渡櫓(長屋
形式の櫓)でつなぐ形式のこと。天守
への入口が建物に囲まれた中庭になる
ため、攻め手を四方から攻撃できるよう
になる。厳重な防備手法であるため天
守防衛の究極の姿であるともいわれ
る。“現存12天守”の中では、松山城と
姫路城にしか見られない構成である。

※日本で12ヶ所しか残されていない、
江戸時代以前に建造された天守。

詳しくは、P17へ。



松山城マスコットキャラクター
「よしあきくん」

STAGE 1. <登城>

180度の急カーブを攻略せよ!!

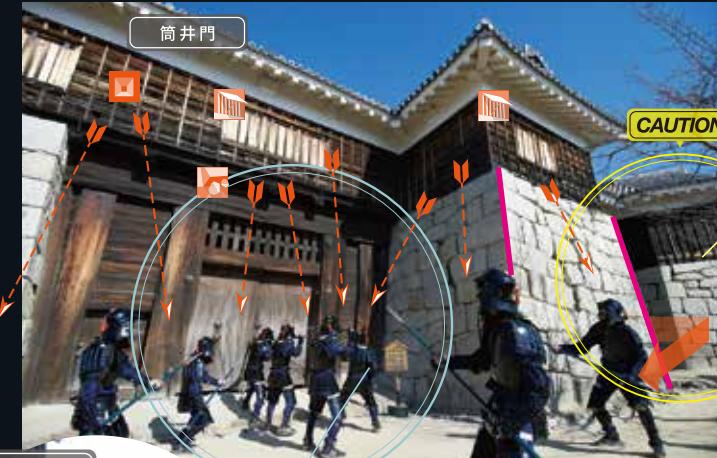


戸無門への
折返し登城道

ロープウェイを降りた長者ヶ平から登城道を進むと、本丸の大手(表)に差し掛かる。その先には天守がそびえ立ち、一直線に向かわせるように見せかける。しかし、登城道はここから右回りに180度折り返している。途中には櫓があり、またかつて石垣上には渡柵も築かれていたため、頭上がらの攻撃にも十分備えて戸無門を突破せよ。

STAGE 2-1. <登城>

最重要かつ堅固な門を打ち破れ!!



大手の要 筒井門



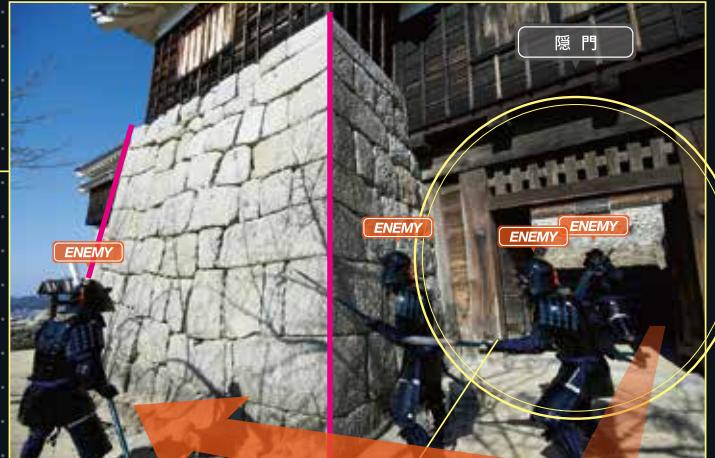
戸無門をようやく突破すると、左手(北側)には筒井門がある。侵入者を止め大手(表)の要ともいえる櫓門であり、松山城最大の門である。頭上の狭間や石落からの攻撃に気を付けながら突破せよ。

筒井門



STAGE 2-2. <登城>

背後からの奇襲を回避せよ!!



隠門からの襲撃



隠門



筒井門を破ることに気を取られていると、頭上の櫓に設けられた石落からの攻撃や右手奥(東側奥)の死角に作られた隠門からの奇襲を受けてしまう。戸無門の先に築かれた石垣に巧みに誘導され、隠門の存在に気が付かない。そこで忍び寄る城兵に襲撃されてしまうのだ。

STAGE 3. <登城>

太鼓門

狭間からの猛攻に耐え忍べ!!



ツツイモン→タイコモン

行く手を阻む
渡柵からの
攻撃



筒井門を突破すると、正面には太鼓櫓・太鼓門・巽櫓(たつみやぐら)と連なる20m以上にも及ぶ防衛線が、多数の狭間や石落を備えて待ち受ける。また、背後にはいまだ健在の筒井門・隠門の櫓がある。正面はもとより背後にも注意しながら突破せよ。

STAGE 4. <登城>

天守から見下ろした本丸広場

広大な本丸での総力戦に打ち勝て!!



ホンマルヒロバ

正面に天守
そびえる
本丸広場



太鼓門を抜けると、ようやく天守を目前とした本丸の広場に出る。開けた場所へ出たとはい油断は禁物!! 正面から向かってくる敵との総決戦に加え、天守からは監視の目が光り、東西にそびえる渡柵に控えた城兵からも嵐のような攻撃が襲いかかる。渡柵が張り巡らされたかつての姿を想像しながら、天守を目指せ。

STAGE 5. <登城>

巧みに切り替えられた

狭間からの攻撃を切り抜けろ!!



大手と搦手の攻防線

大手側(表)となる本丸広場から搦手側(裏)へと通じる紫竹門の周辺では、大手側から搦手側への侵攻、搦手側から大手側への侵攻との両方に対応した仕掛けがある。頭上の櫓には狭間や石落が備えられているのは勿論のこと、紫竹門東堀は搦手側の攻め手に対応するため狭間から正面に攻撃を受けてしまう。場所に応じて、つくりを変えた周到な構えに注意しながら紫竹門を突破せよ。



紫竹門から西に延びる渡堀は、狭間の向きが途中から逆転している。これは大手側・搦手側・本丸石垣下からと、攻め手の動向に備えられているため特に注意が必要だ。

STAGE 6. <本壇>

四方八方の攻撃から身を守れ!!



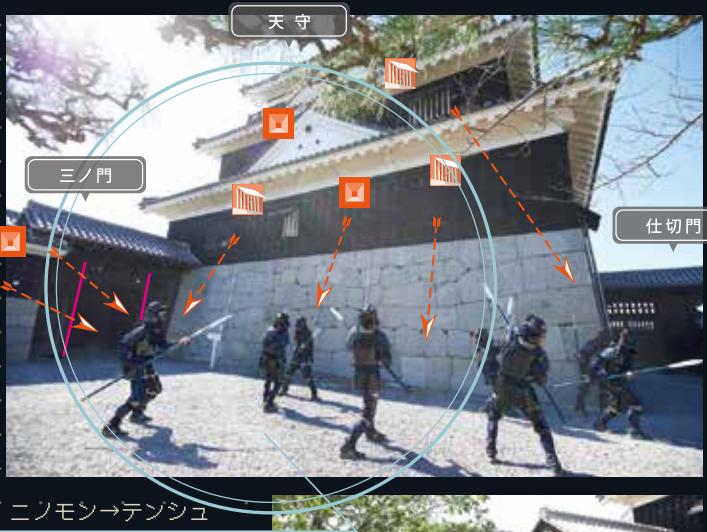
一ノ門から
二ノ門の枠形



いよいよ本壇。本丸広場よりも10m高い石垣上に築かれており、入口は上り坂になっている。本壇への唯一の入口である一ノ門をくぐると、二ノ門手前に小広場となった枠形へと至る。その枠形では四方の櫓や塀からの集中攻撃を浴びせられるため、さらに勢いをつけてその場を切り抜けよ。

STAGE 7. <本壇>

二方向の侵入路に惑わされるな!!



二ノ門を
越えた
小広場



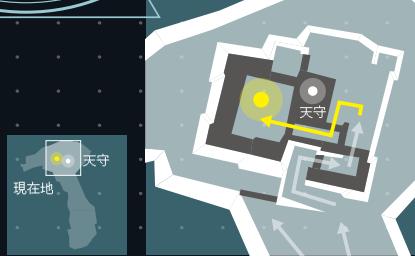
二ノ門を過ぎると、小さな広場に出る。ここから天守内部へ至るには二方向に侵入路がある。二ノ門から180度折り返し三ノ門へ進むか、天守の北側へ回り込み仕切門へと進むか、どちらの方向を選んでも背後を突かれたり、天守内部や周囲の櫓・渡塀から攻撃を受けてしまう。前後左右・頭上にまで注意しながら天守へと侵攻せよ。

STAGE 8. <本壇>

最後の総攻撃!!弓矢・銃弾の嵐を突破せよ!!



連立式天守 の中心部



ついに、本壇の最深部である連立式天守中心部の中庭まで至ると、もはや完全に逃げ道はない。四方八方から総攻撃を受け、完全に袋のネズミ状態である。嚴重な防備手法であるため天守防衛の究極の姿であるともいわれる連立式天守の構造を攻略して初めて、天守内部へと足を踏み入れることができるのだ。

SPECIAL <天守からの眺望>



COMPLETE!

攻略の証に記念スタンプや写真を残そう！



よくぞ
ここまで辿りついたのう

山麓から攻める

現在はロープウェイ・リフトが整備され、東雲口登城道を利用することが多いが、築城時は二之丸から本丸へと通じる道は黒門口登城道のみであった。この黒門口登城道と三之丸は、石垣(登石垣)によって厳重に防衛された場所でもある。(二之丸は現在「二之丸史跡庭園」として整備)

当時の姿を思い浮かべながら、「二之丸史跡庭園」を経て、本丸を攻めるのもおもしろい。



登石垣

登石垣は、山腹を登るように築造された石垣のこと。松山城では山頂の本丸と山麓の二之丸との間に広大な空間への攻め手の侵入を防ぐため、それらをつなぐ南北2本一对の登石垣が設けられていた。その石垣上には、渡堀や二重櫓も備えられた。北側の登石垣は、明治時代以後に破壊され一部を残すのみだが、南側の登石垣は、ほぼ完全に残り総延長は230m以上にも及び現存規模としては国内最大を誇る。また、登石垣について通説では豊臣秀吉の朝鮮への出兵時に日本軍によって朝鮮半島に築かれた倭城に用いられたのが最初とされている。松山城の創設者である加藤嘉明は、出兵時の経験を松山城築城の際に活かしたものと考えられている。



松山城の二之丸は、本丸南西の山裾を約40mの高さに伐り均し築かれた石垣上に構築される。かつて二之丸は政務や居住のための藩邸機能があり、また渡堀・櫓・城門といった武装建築を備えた要害堅固なものであった。現在は「二之丸史跡庭園」として、邸宅の間取りを再現し庭園として整備し、築城時に造られたとみられる大井戸の遺構が露出展示されている。

詳しくは、松山城ホームページへ。

松山城

検索